

情勢報告

室戸市担い手育成総合支援協議会が耕作放棄地対策を推進



異業種からの農業参入説明会

耕作放棄地対策や担い手確保を目的に、11月9日、市役所で建設業者を対象とした「異業種からの農業参入説明会」が開催された。農業参入するうえでの留意点や支援制度、系統出荷に関する手続きや代表作物の経営指標等について説明をおこなった。

また11月15日、釣の口・古矢集落を対象とした「耕作放棄地対策説明会」を開催した。基盤整備事業の導入による地域の活性化を提案したところ、「風が強く、耕土が浅い」「基盤整備は必要と感じている」、「借り手がいれば貸したい」などの意見が出された。地区でまとまる必要があり、今日の内容を欠席者に周知してもらうとともに振興センターでは、今後も釣の口・古矢集落の活動に対し市と連携して積極的に支援していく。

JA 羽根園芸研究会ナス部会が現地検討会を開催
～ナス部会全戸の天敵導入まであと4戸～

天敵おるろうか？

11月10日、現地検討会が開催され生産者20名（部員39名）が参加した。

23園芸年度は35名（部員の90%）が天敵昆虫を導入しており、現地検討会でも話題の多くは天敵昆虫の発生状況が中心であった。「害虫の発生はどうか」「葉面散布は何をしゅう」などの意見が出されていた。

振興センターは天敵昆虫の発生状況やナスの生育状況、今後の温度・施肥管理について指導した。

現地検討会は本園芸年度中に4回計画している。これからも天敵の全戸導入に向け、継続して誘導していく。

室戸市農業研究会キュウリ部会が現地検討会を開催



まずまずの生育やない？

11月13日、現地検討会が開催され生産者10名が参加した。ほ場を巡回しながら定植時からの生育や病害虫の発生状況、今後の栽培管理等について意見交換を行った。「摘葉ぐあいはこの程度でいいのか」「施肥量はこれでいいだろうか」など様々な質問、提案がでていた。

振興センターは今後の施肥管理のポイントについて、JAでは農薬防除について指導した。現地検討会は種子会社の協力もあり毎年、11月～3月までに4回開催されており、振興センターは関係機関と連携し、キュウリの収量や品質向上を目指し、継続して指導していく。

室戸市における新規就農者の育成・確保



就農計画の説明

11月16日、市と振興センターが連携し、平成22年度室戸市新規就農者支援事業の研修生2名を訪ねた。市は事業の中間実績報告について、振興センターは事業要件である認定就農者に向けた就農計画作成について説明した。

2名とも、認定就農者になるには一定の農業所得目標を明確にした就農計画を作成しなければならないことを理解しており、1月末を目処に就農計画案を作成することも了解した。

今後の取組として振興センターは研修生受入農家とともに、就農計画のたたき台を作成し、研修生に投げかけ経営面での能力向上を図る。

～ いよいよ、千両の出荷時期が近づいてきました ～



現地検討会の様子

12月上中旬の千両市への出荷に向けて、目慣らし会（室戸市吉良川地区：11月17日、25名参加）や現地検討会（室戸地区：11月18日、6名参加）を開催し、現地圃場での色付き具合の確認や出荷に向けての各種準備、出荷規格の意識統一を図った。

今年は、4月上旬の低温や夏場の猛暑等の影響もあってか、例年に比べて、実つきが悪く、出荷予定数も1～2割程度少ない見込みで、色付きもやや遅めとなっていた。

振興センターでは、同市の2地域のお互いの状況や茨城県等他県の動きも報告しながら、出荷規格を順守して売りだしていこうと呼びかけた。

今後も、部会、JAとも協力・支援を続けていき、産地の維持・発展に努めていく。